

住吉名勝圖會

三





人



住吉名勝圖會卷之三目錄

神宮寺由来

津守寺之圖

浄土寺之圖

鎮守之神

慈恩寺車返櫻

廣田社之圖

今宮夷社之圖

同寺年中行事

新宮之圖

國基之社

告礮之石

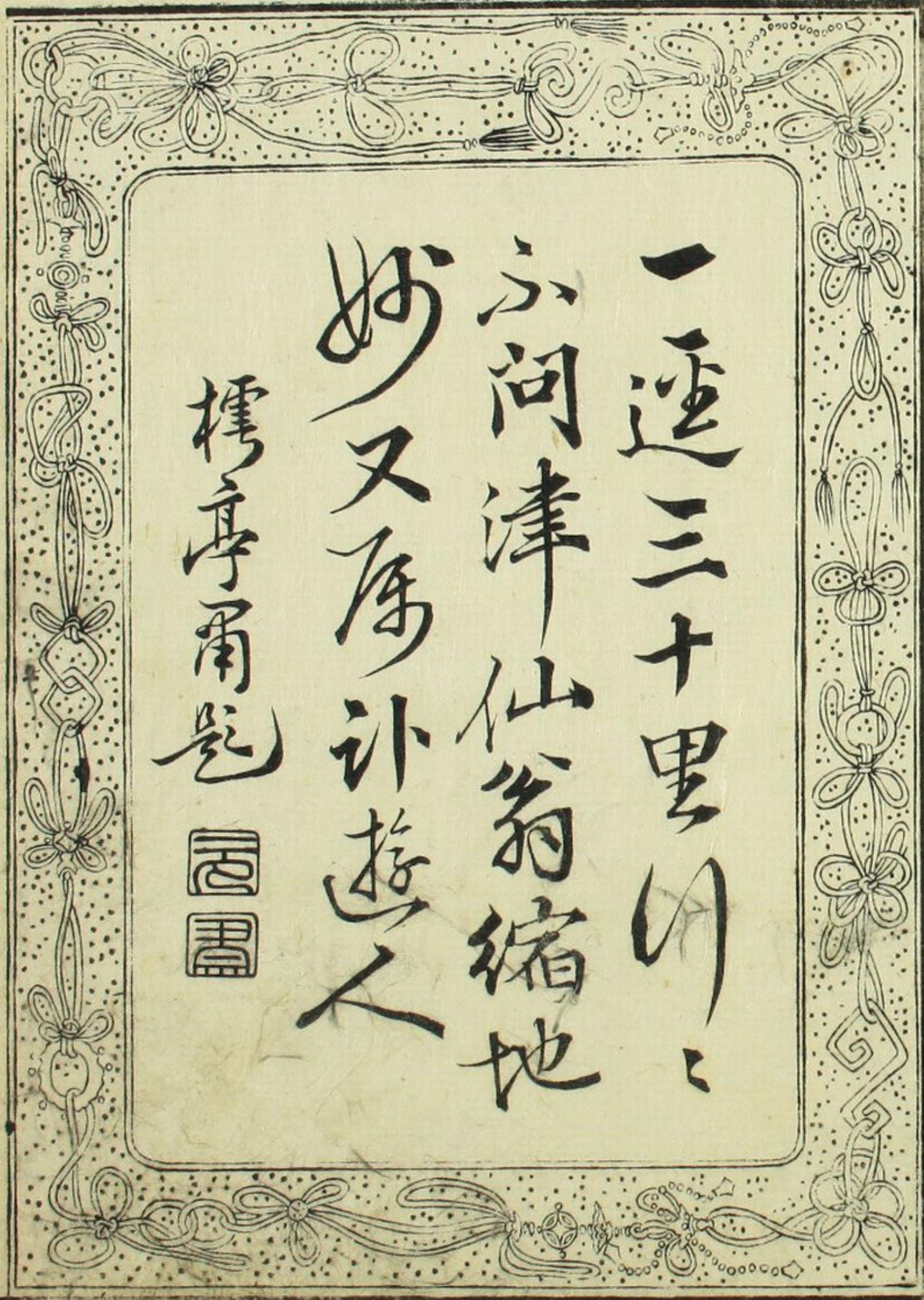
牀菜庵由来

星ヶ池由来

瑞龍寺之圖

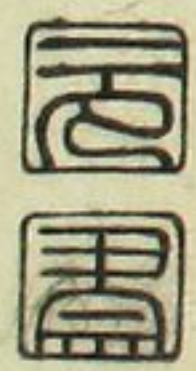






一途三十里  
 不問津仙翁縮地  
 妙又属补遊人

樗亭甫題

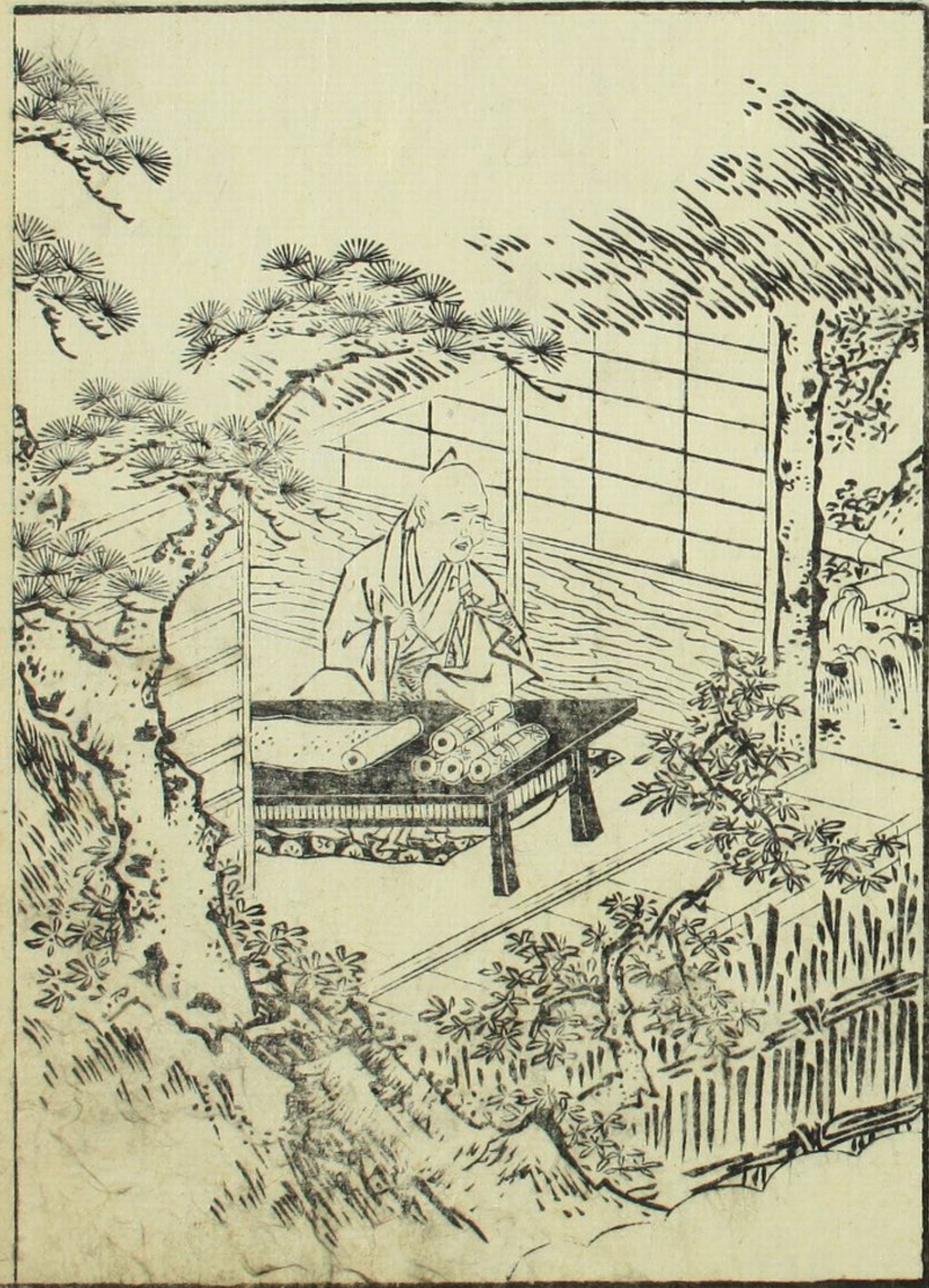


土塔之宮之圖  
 安倍野王子之圖  
 經塚之由来  
 萬代池之圖  
 播磨塚之由来

以上

庚申堂之圖  
 松蟲塚由来  
 大名塚由来  
 小町塚由来





神宮寺



三ノ一



寺院之部

神宮寺

在住吉社之北日光御直未寺領三百六十石境内  
東西六十七間五尺南北四十一間四尺佛堂八字  
日本堂曰釋迦堂曰阿弥陀堂曰大日堂曰東塔曰  
西塔曰求聞持堂曰一切經堂是也

○勘文曰孝謙天皇天平寶字二年戊戌依靈告經始之本尊藥師如來十二神將四大天王又曰本尊者自三韓傳來尊像而所納彼國新羅寺佛頂也然渡我朝遂為當寺本尊入石櫃以奉納于内殿之上中古來秘佛而聊無發蓋矣元是新羅寺佛像故亦以當寺号新羅寺

○古今著聞集云... 息覺大師如法經書云... 時白髮乃

老翁杖たつとこりて山よらのわりろがあれくさー内裏の守護といひ此如法經の守護と云年々高くなりてくさくさむろよと宣ひあり難くなり尋れり皇威も法威もたたり住吉の神なりと名のりむひあり皇威も法威もたたりあり我住吉を四所増し一祈所へ高貴徳王大菩薩祈託宣よとく我々是境率天内高貴徳王菩薩なり為國家鎮護垂跡於當朝墨江邊松林下久送風霜時有受若身當北方有一勝地願奏達云家建立一伽藍轉法輪あれたりて神宮寺に建立せられり下界昔時承平七年僧明達と令し朝敵藤原純友と誦伏



僧明達



〇明達當寺の薬師佛のりて其靈驗掲ぐ終に純友誅せ  
 り此奉元亨釈書にもほまひひみ見たりも〇五大尊の畫  
 像り當寺の重寶して寶藏み納し

神宮寺年中行事

正月

〇元日 本堂修正會自今日至七日

〇二日 十講法事 〇三日 同上

〇四日 結願法事 〇五日 於東塔四社御本地供

〇六日 於西塔四社御本地供 〇七日 東西二坊御本地供結願

〇於本堂七ヶ日之結願牛王寶印結願







二月

- 八日 於本堂御本地供例月勤之
- 十二日 於本堂護摩供
- 十四日 於釋迦堂普賢講。於東塔修正會。牛王寶印行法
- 十五日 於釋迦堂三五味。於西塔修正會。牛王寶印行法
- 十七日 於本堂神供 ○十八日 觀音講法事
- 廿二日 於衆會所毘沙門天法修行
- 廿四日 於衆會所天台會法事執行
- 廿五日 天神講。與天神社內觀音堂法事。連歌會
- 卅日 於本堂護摩供

三月

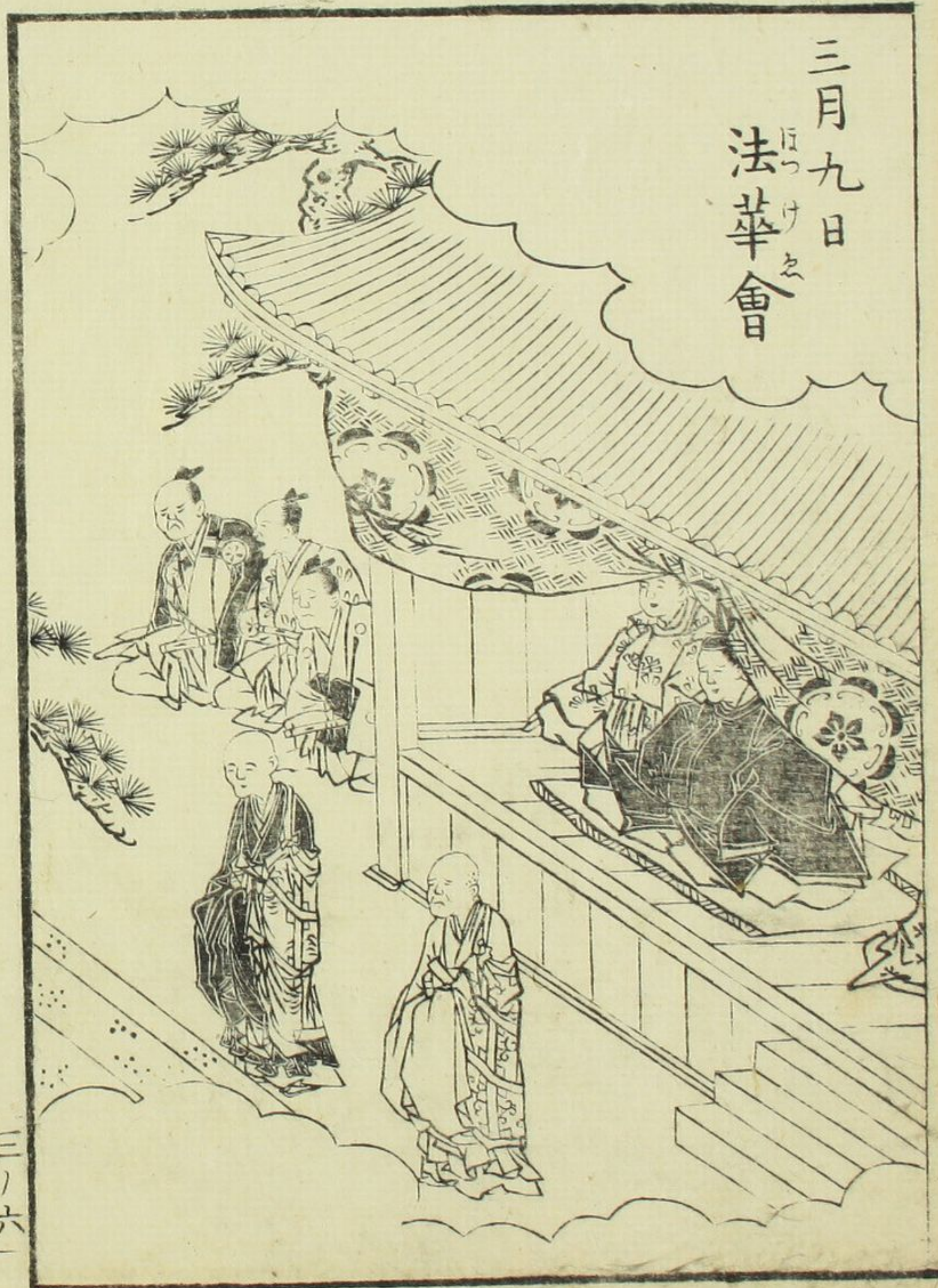
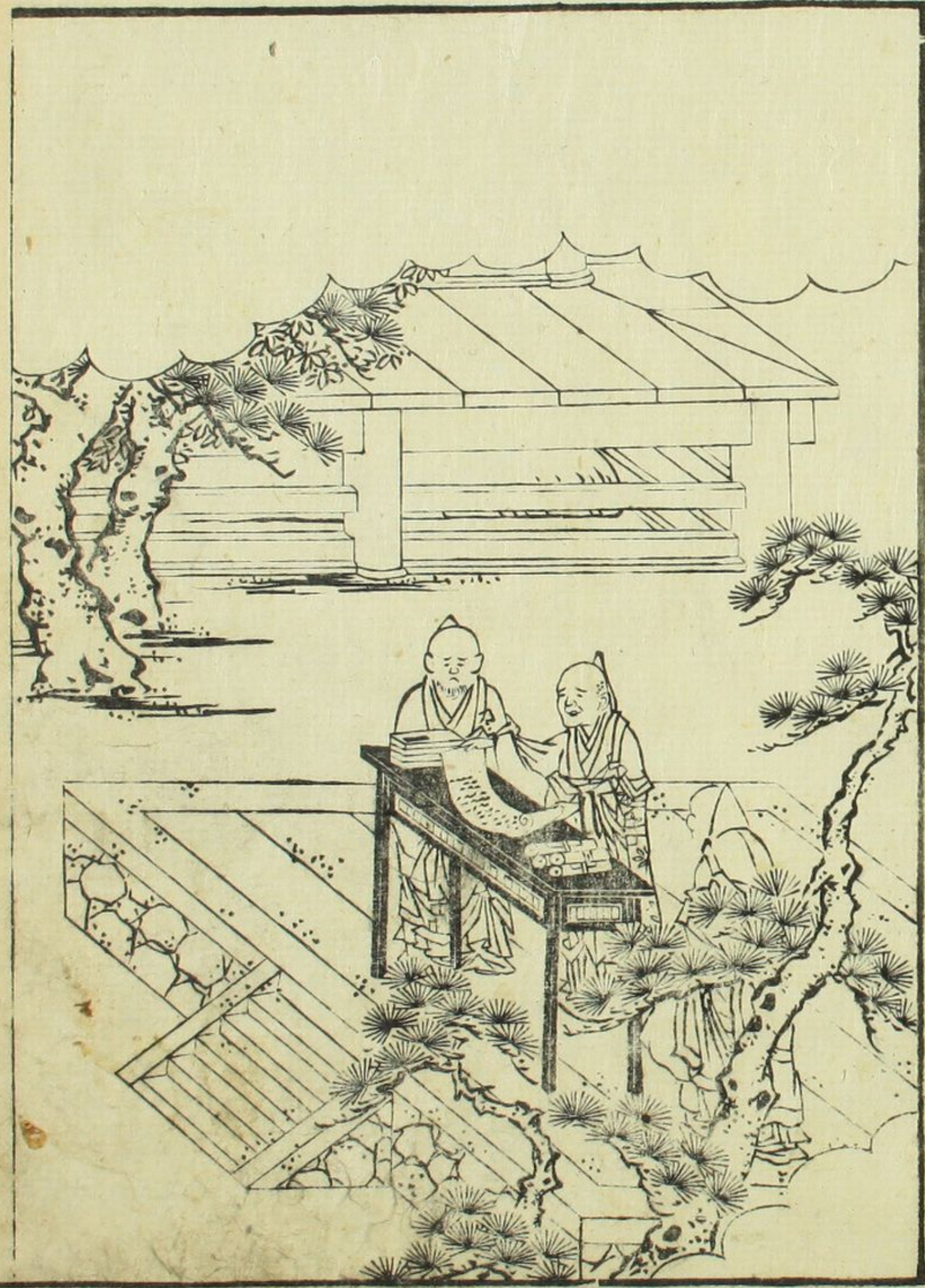
- 八日 於本堂本地供 ○十五日 涅槃會法事
- 廿四日 於衆會所天台會 ○廿五日 天神講。連歌會

- 三日 本堂本地供 ○八日 同上
- 九日 法華會於舞臺勒之社勢着座。和歌會
- 十五日 舍利會 ○廿四日 於衆會所天台會法事
- 廿五日 天神講

四月

- 申日 <sup>上之</sup>山王祭法樂法事 ○八日 於本堂安居百々日法事
- 開闢。於釋迦堂同法事。於本堂本地供







○廿四日 於衆會所天台會 ○廿五日 天神講

五月

○五日 於東塔本地供護摩 ○八日 於本堂本地供

○廿四日 於衆會所天台會 ○廿五日 天神講

○廿八日 御田植神事社僧以下着座式事數多

六月

○二日 傳教忌十講開闢法事法華講問

○三日 同右 ○八日 於本堂本地供

○廿五日 於衆會所天台會 ○廿五日 天神講

○晦日 御拔神事社僧年少之者馬上神輿供奉於塚宿

院宣命法事

七月

○八日 於本堂本地供 ○十日 施餓鬼法事

○十四日 於本堂安居百名結願 ○於釋迦堂法事日中結願

○廿四日 於衆會所天台會 ○廿五日 天神講

八月

○八日 於本堂本地供 ○廿四日 於衆會所天台會

○廿五日 天神講

九月

前月同事

十月

前月同事



十一月 前月同事

十二月

○八日 於本堂本地供 ○十五日 於本堂三千佛名經

○廿日 於衆會所天台會 ○廿五日 天神講

右神宮寺年中行事大槩

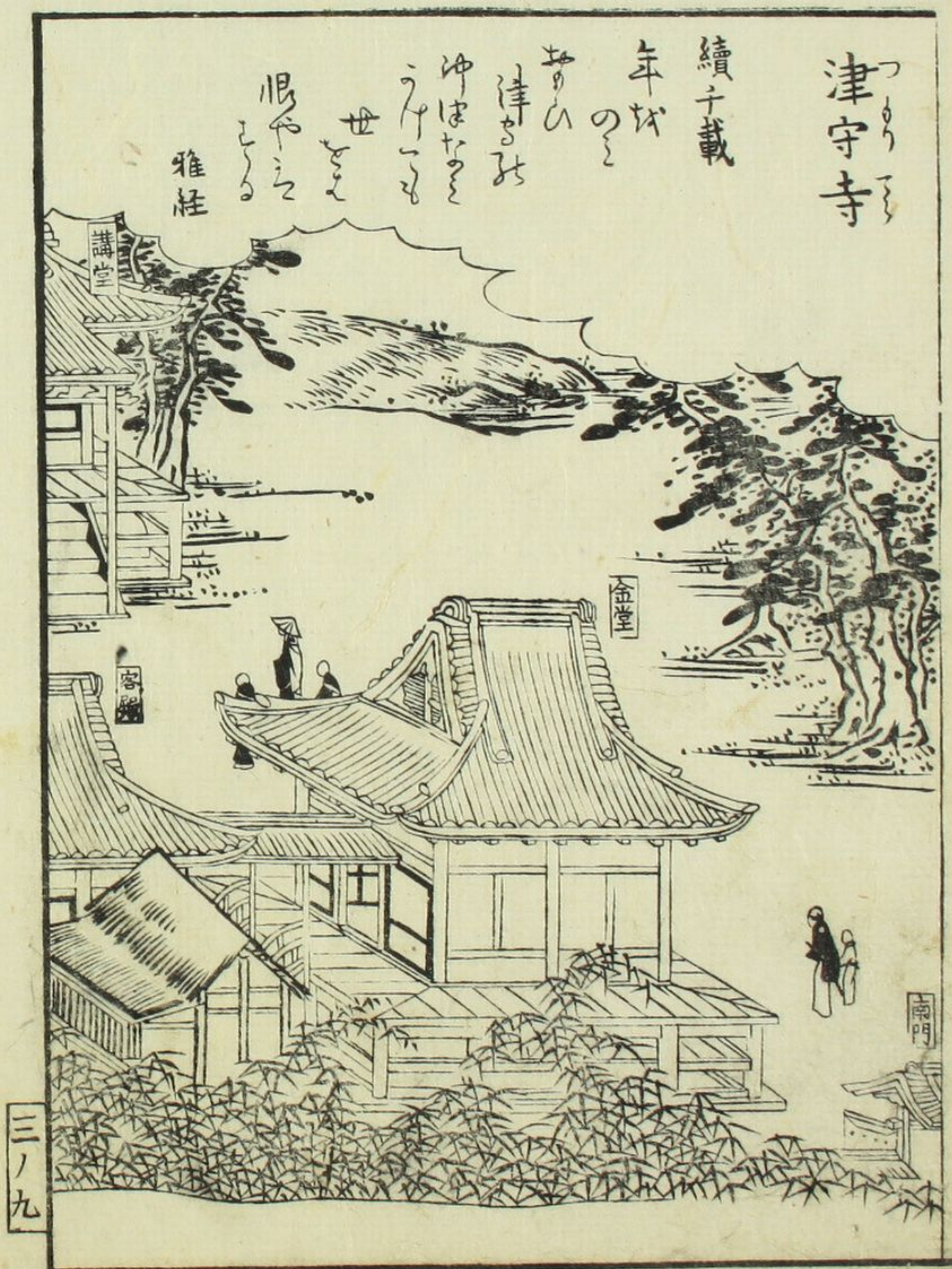
津守寺 住吉郡住吉社南東より

當寺之醍醐天皇延喜元年二月草創教尊之藥師  
如來住吉の浦より出現此靈像なり或曰因幡國入  
海中より出現ともいへりよて因幡藥師の号あり洛陽  
因幡藥師と同様の尊像なりと云傳ふ

新宮社







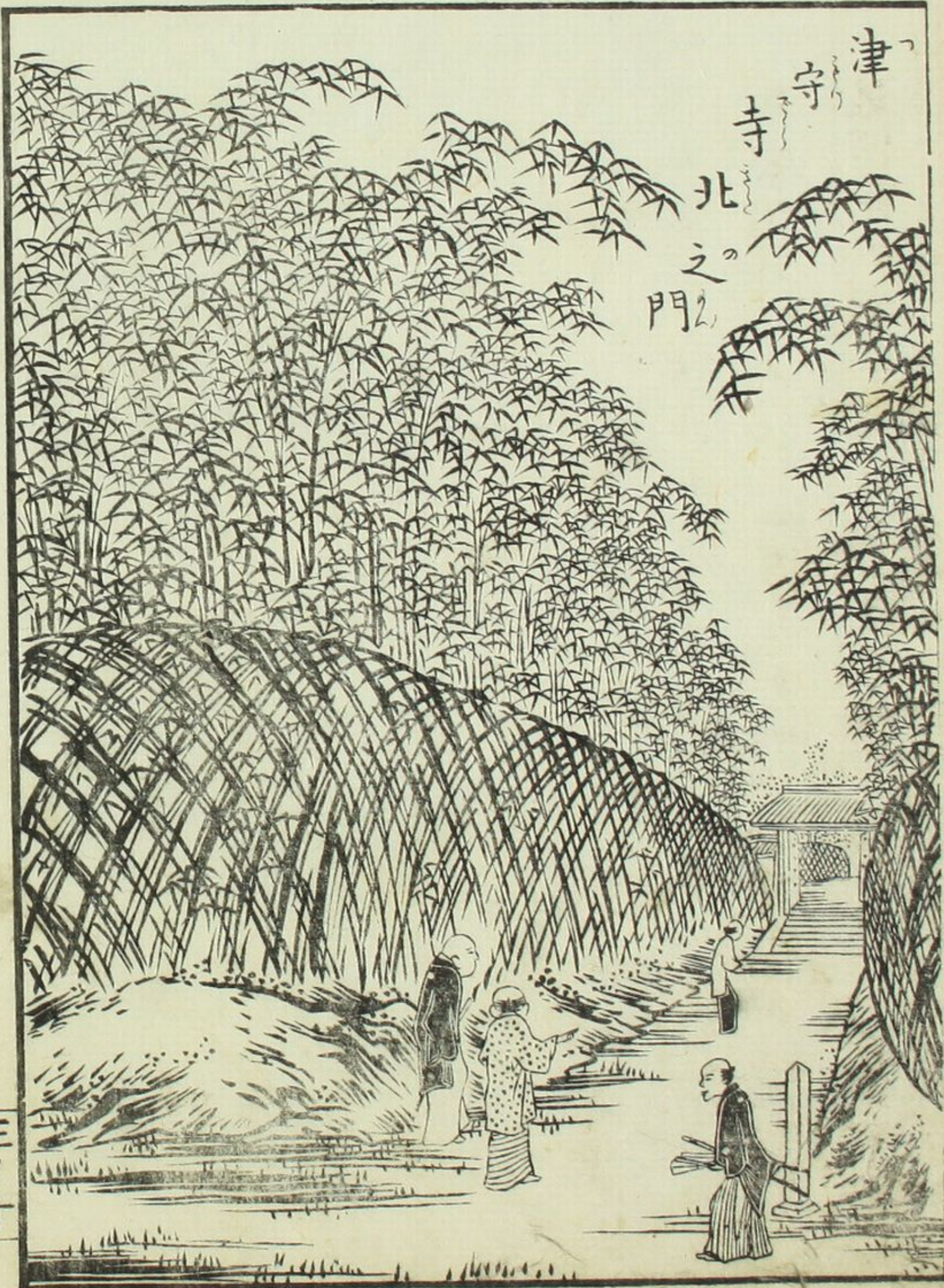




莊嚴淨土寺

住吉社之東より

朝日山淨土寺と号り本尊は大聖不動明王弘法大師  
 の所作是湛壺彫刻の愛染明王釋尊四牙五色の佛  
 舍利を安置しむり朱雀帝の浄宇将門純友誅伐時  
 時當寺の尊像より奇特な場々終に逆臣誅伐に白  
 河院の浄宇津守國基勅命をあらむり當寺は再建に  
 時如土中より三尺有余の金札を堀出せり其銘は曰七  
 寶莊嚴極樂浄土と書り仍て境内八町四方より  
 都卒内院を表し伽藍と建莊嚴淨土寺の号は賜ふ  
 堀河院の浄宇延厨宮道式賢卿と勅使と講師横川









慶朝僧都讀師西塔宗心阿闍梨等を以て同元供養  
ありしより代々大伽藍に靈場なりしを今も亡き其  
後後村上天皇先帝御追福に爲家行幸し其懐  
舊乃御製歌宸筆等當院の寶藏に納む龜山院  
の市宇南都西大寺乃末院と成時文龜元年中興  
岡山と興正菩薩なり

國基社

同寺内より

住吉の神と和尓の達人なり國基の奇

傳量如く玉章に地々鷹鳴する夕園のそと  
此より國基の庭量の神と云傳

鎮守之神

同寺内より 辨財天社

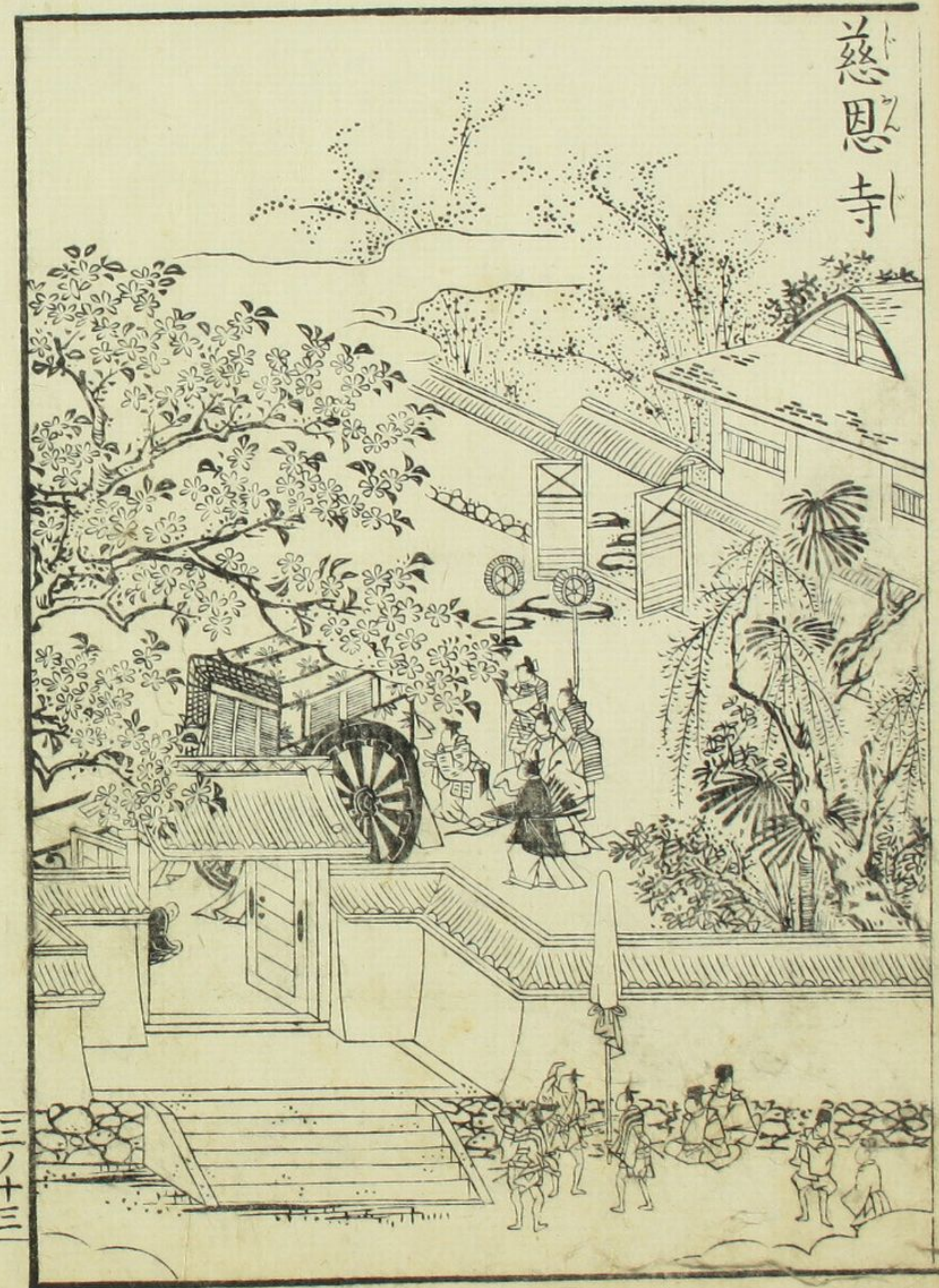
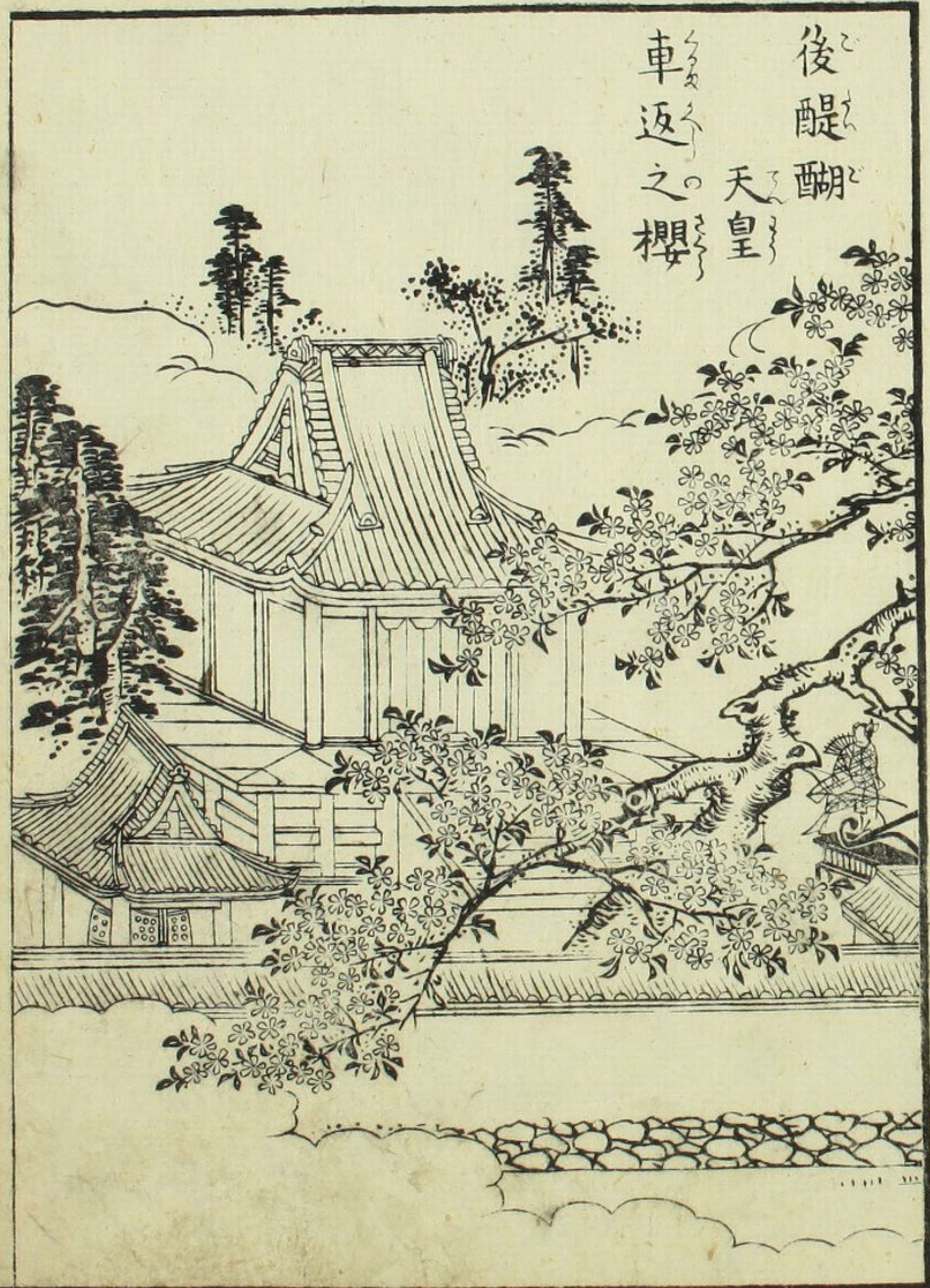
祭神倉稻魂神本地垂迹の靈像に佛工定朝乃作當寺  
の鎮守とん

告儀石

同寺内より

當伽藍建立の時檀石を紀州玉津島よりとて津守の  
國基和尓と奉りおれに神是に感得て住吉に礎石を  
寄しと告む好む所の石も住吉礎石打揚伽藍成就  
しぬ其余まる石成る故告礎石とりなり一説は是を  
今の正印殿の庭造作の時國基玉津島より和尓とより  
得りし石を當院に寄附しりしに其奇を







「年終も老もせしむとわが浦代め成りぬ王は島姫」  
此歌の趣意ハ石と云ふ事あり此奉歌文も見へ依れ其説  
たしなむ清輔の袋草紙も此こととせされも歌文の意  
と相遠れられ今更ふ其事正しく用なれハ倍傳の傳  
記に見ん人用捨り

慈恩寺 住吉社より 東より

奉尊十一面觀世音聖德太子の淑作寺内ハ後醍醐天

皇車がの櫻あり

牀菜菴跡 住吉郡遠里小野村より

紫野大徳寺真珠菴一休和尚の住まはる菴なり一

休住吉み糸籠通夜もひりりみまて老僧一人同く

籠り居り一が一休和尚又同てふ和尚とと詠ふや

と一休のこのこと詠へて言下み

来てんまの安も火宅の宿なれ何位よと人のりも覽

この老僧打多ひて

素てなれ安も火宅の宿なれと公とめて位とすは

とかく物語よ東乃空もまらくと夜も何事なれぬま

老僧を何所ゆき久見んなりぬりりれは空あり

く伊ひひて安み菴をむむ位もひちりやなん今も

自画讃の像其所にあり

其讚曰詩情禪味俱無能龍寶山中滅大燈盲女艶歌欺  
樓子虚堂七世菴苴僧  
諸徒圖余陋質請讚不免自許文明六年五月大  
澤七世東海順一休天下老和尚





住吉糸道案内

○大坂よりの本街道を堺筋通りと南へ日本橋迄渡り

其すくぬ長町と南出離を 東へ天王寺 西へ今宮 行當り西へ一丁

ゆき今宮村れの辻と左へ一筋道則足本街なり

一之巻ふくむく

○公齋橋通りを南へ公奇ば渡りすくぬ野へ出る 難波 新地

んばの沖蔵社前を今宮へ出る左の方廣田の社 図縁記

蛭子の社右の方に有 図縁記 東へ行へ右の札乃過へ出る

是より右の本海道なり

○廣田社 祭神五座

住吉 表筒男 中筒男 底筒男

廣田 天照大神 荒魂



八幡譽田天皇 南宮大山咋八社 高皇產靈尊 則武庫郡廣田の社同神なり

○蛭兒社 祭神三社 ○蛭兒尊 素盞鳥尊 大日靈尊 是

也 日本書記曰伊弉諾尊伊弉冊尊為夫婦生蛭兒便載葦

船而流之又曰蛭兒雖已三歲脚猶不立故載之天磐椽樟

船而順風放棄云云 二十二社註疏云西宮蛭兒社相殿之

神二座事八十神右大穴遲神左俗謂夷三郎者伊弉諾尊

伊弉冊尊生日神次生月神次生蛭兒故謂三郎以容異相

号夷云云 浪華の俗此河社高商の神と稱奉り例年正月十日の

日福得と祈るとて貴賤雅俗群々んとする事後一當

村々々々合法が過安居宮一心寺清水或は浮瀨福屋

かんといふもろりまがも人の行ぬ猥もなく十日戎号して西

廓江南の青樓より妓婦の詣るるなはんいふくといふ

るまきあふとくれとや花おどりいふみほやみ出立青とた

る竹輿群集の中と強み押ゆくと武家は早あてふとのよ

似通ひたりや足かんうらけ輿と稱し侍る笹の枝みせ袋

よの儀あゆの寶のけくりもの附く打上げ金巾子の冠め

しる千鳥の友呼びしきくぬと罵りてゆきくあり

うぬくみ納まる 御代の春哉と母ひ志す三月廿三日



廣田社

星子池と云々今宮  
 怪子神悪星と  
 此池は鎮めり  
 又聖徳太子傳  
 天皇九年  
 太子御年  
 九歳夏六月  
 人をして巻く  
 曰く連八嶋  
 と云々の有  
 人育て来りて  
 相知て争  
 うと聲あり



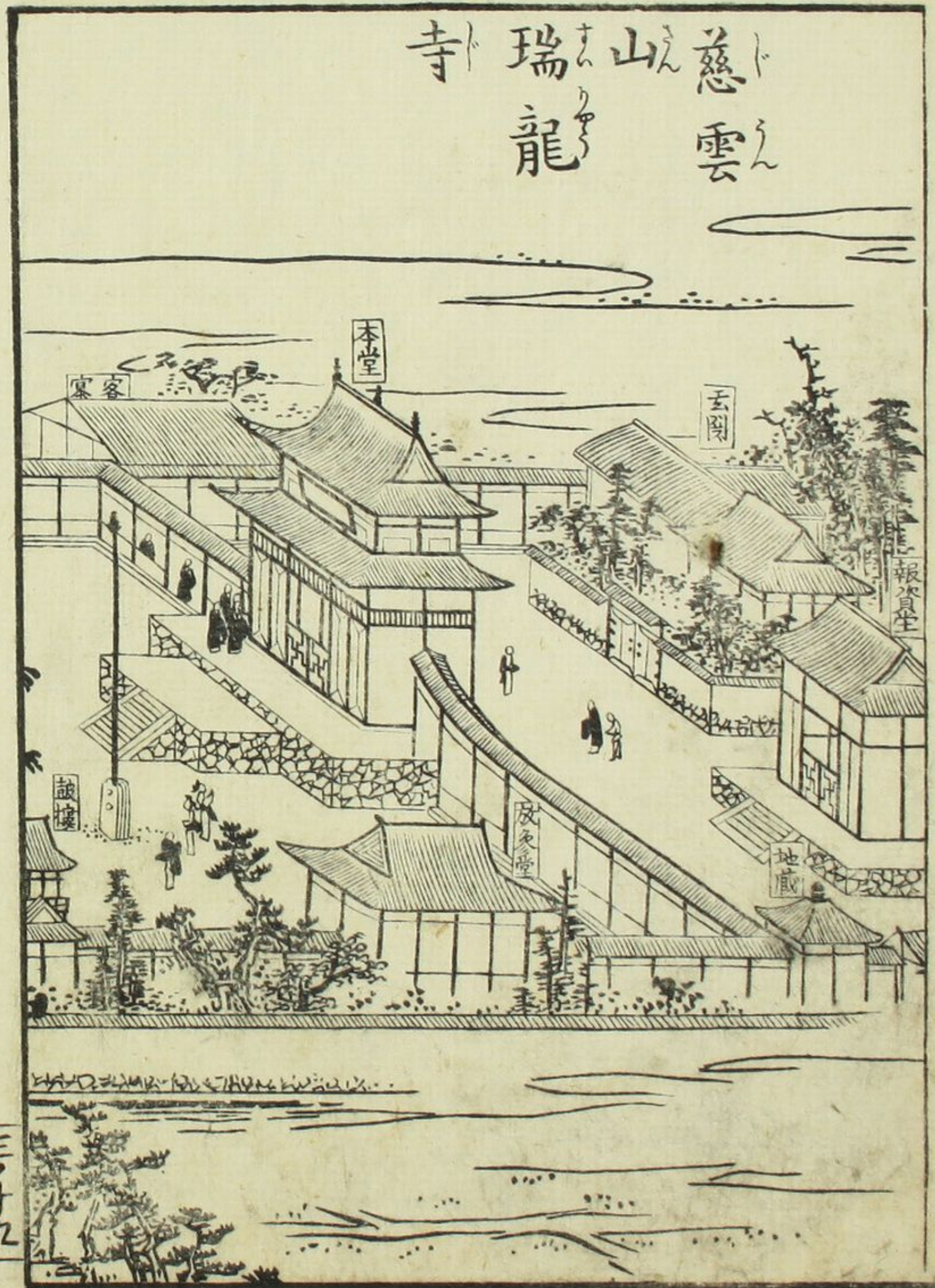
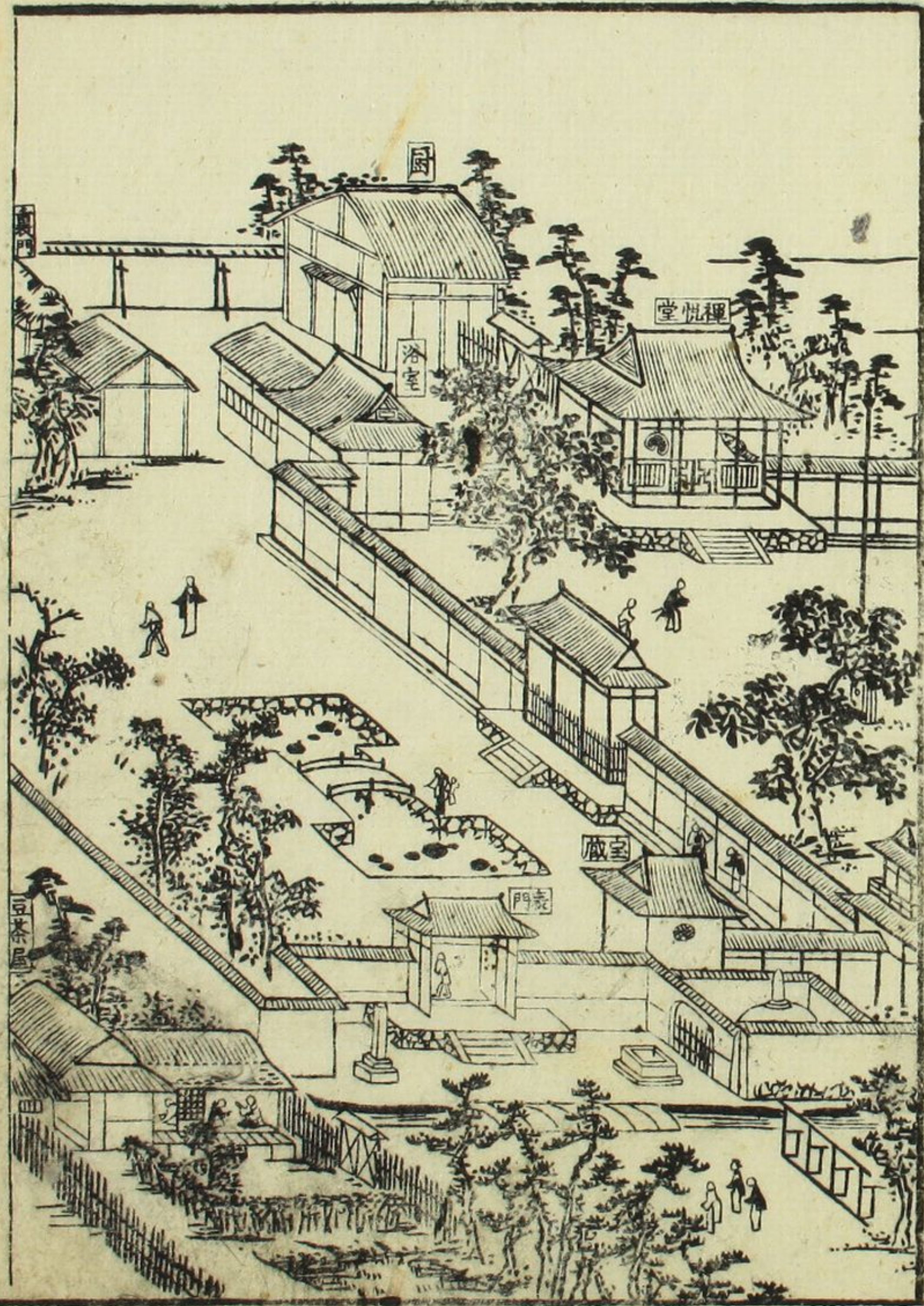
常の人の音はくさるる八嶋  
 星とわたりて退るるれ  
 住むは流るるりて曉夜中  
 入物有て火のくさるる光を  
 ぬつたりて天のくさるる光を  
 傳りて奏して曰く是は星  
 星なり天皇嘗て是を  
 太子奏して曰く是は星なり  
 と云ひ象五色なり家星の  
 色さるる東亦也と云ひ色  
 赤くは南火也此星下  
 て化して人となりて童子の  
 中よ交て好て作信なり  
 未練の事と云ひ是星  
 早れ天皇と云ひ悦め其御表  
 我字ありと云ひ其御表  
 と云ひ其御表あり  
 と云ひ其御表あり













午刻神拜音樂有り九月十八日流滴馬豊後相模等所  
に於日神輿天王寺石の鳥井まで臨幸あり此の神拜  
社役等と天王寺より勅使有り歴世 御朱印地と  
土倍今宮殿と稱し奉る

○道頓堀と西一橋と渉りたへ川端と難波村へ入る右  
慈雲山端龍寺 鐵眼と稱しあり門前小料理亭あり豆  
茶家と号村中川有本津と云ふはの境なりと云ふに本  
津村と南へ出るとま野道と行是を中道と云ふ本街  
道の西手なり

○慈雲山端龍寺 本尊薬師如来 世に難波と云ふ安置  
薬師と云ふ

に禪宗黄檗の末院鐵眼和尚の開基也二世寶州和  
尚諸堂以増建し其功全く備り

○天王寺南門より庚申堂 固有乃方へ行少し右下り南  
安培野街道なり天王寺南門より土塔の宮有 園を街道小  
玉子社 固有 松蟲塚 経塚 大名塚 小町塚 播磨塚 各由来  
次に出に  
等ありたより万代池 固有 中て住吉社 人町 歩東の鳥井  
より系るなり

○庚申堂 天王寺南門より南へあり青面金剛童子梵天  
帝釋三申四鬼の正面として薬師観音地藏安置に庚  
申此日と貴賤羣系するやいし文武天皇大寶元



庚申堂  
 不守庚申  
 亦不疑  
 此心良與  
 道相依  
 玉皇已自  
 知行此  
 任汝三彭  
 說是非



三ノ廿一

庚申と  
 かくし題  
 沖中乃  
 与る白村  
 海士や  
 魚や  
 乃月





土塔の社



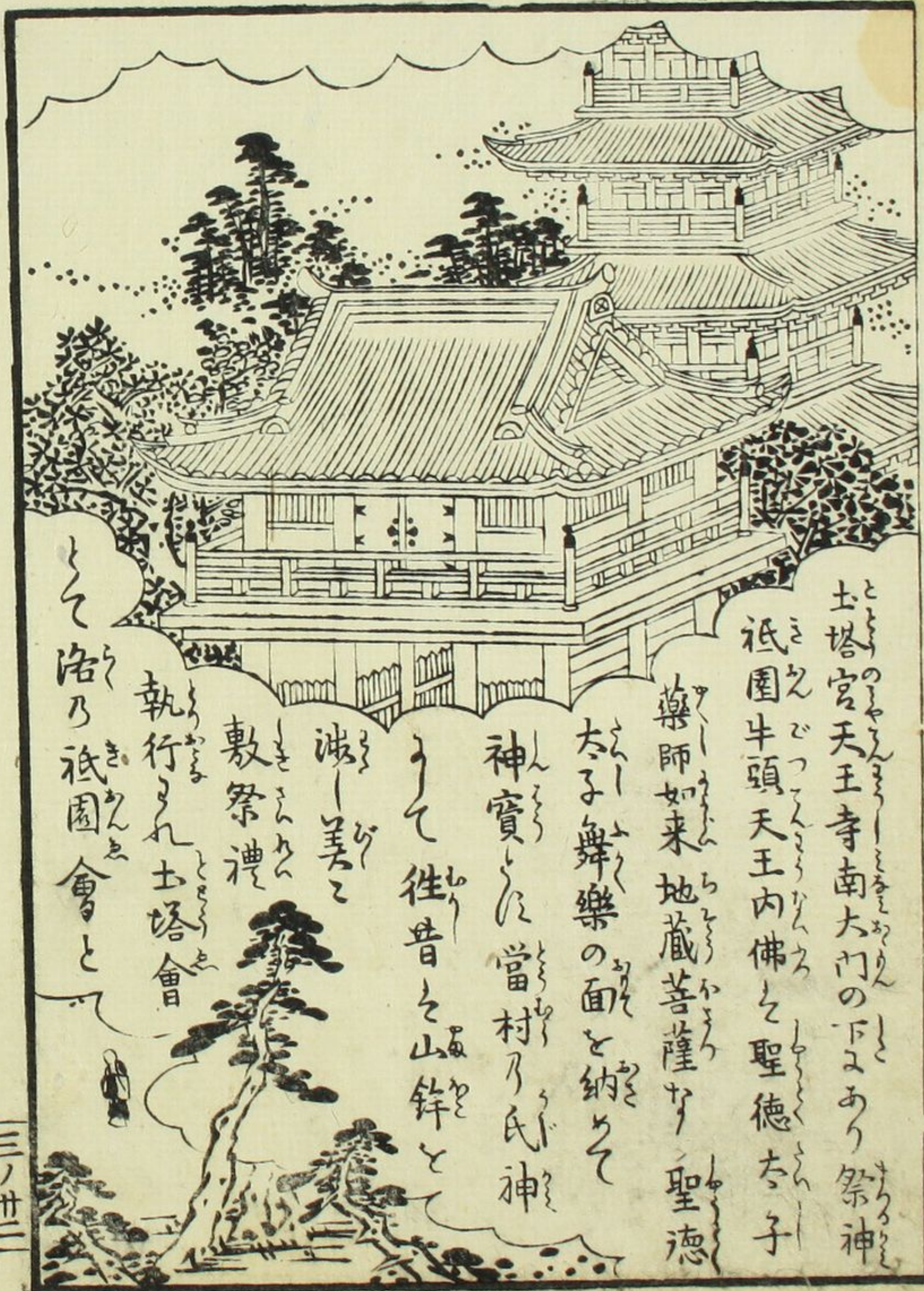
一對の祭禮

瑞龍山と

号

傍又土塔塚

土塔社



土塔宮天王寺南大門の下あり祭神  
祇園牛頭天王内佛と聖徳太子  
薬師如来地藏菩薩が聖徳

太子舞樂の面と納りて

神寶に當村の氏神

りて往昔の山鉾と

沸し美と

敷祭禮

執行せし土塔會

とて洛乃祇園會と



古跡ありと  
 傳ふ  
 清明の社



安倍野街道

村の  
 安倍野  
 王子の社  
 二月  
 偶居し  
 支王  
 支王  
 支王



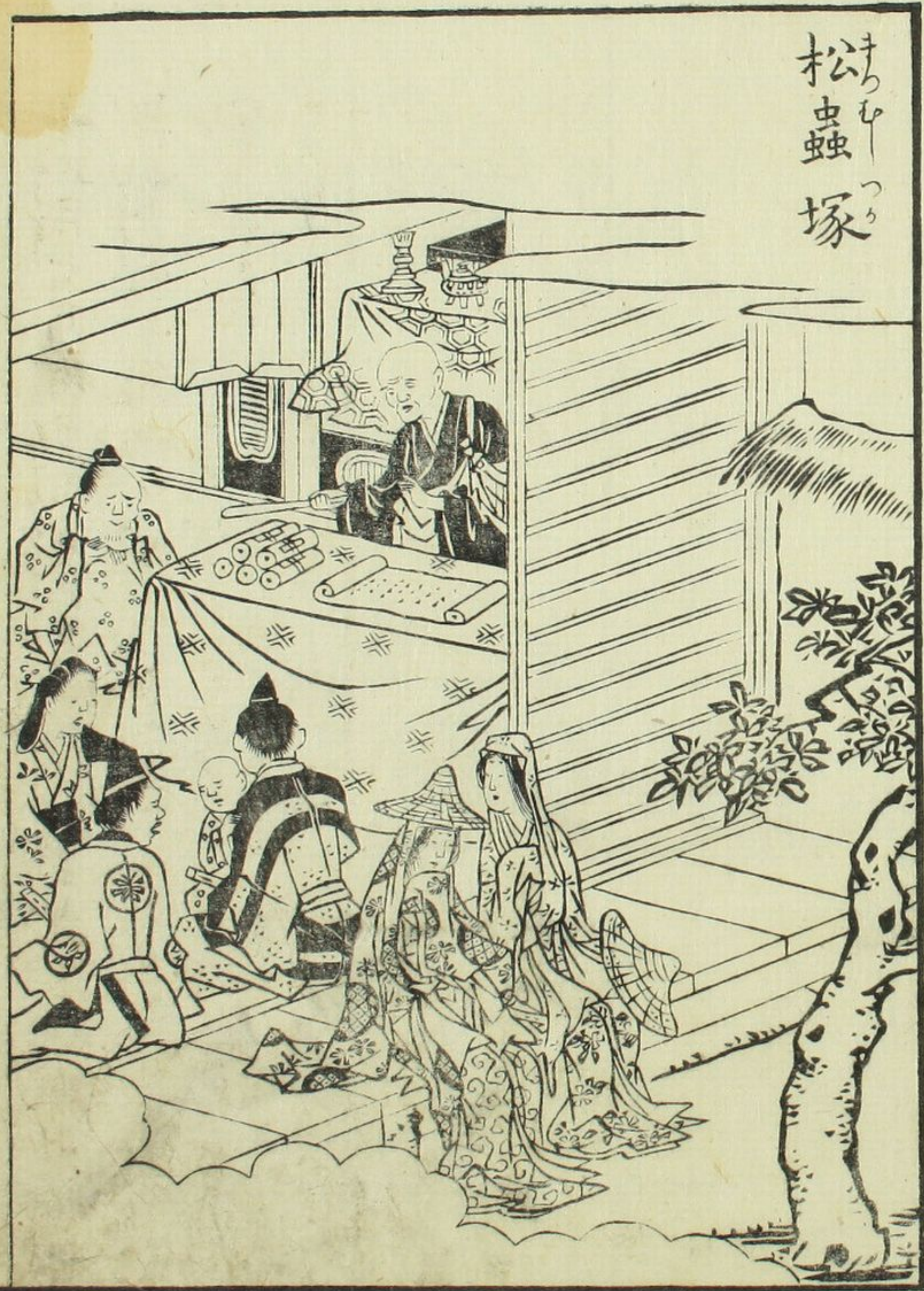
三ノ廿三



年正月七日庚申天童あすくより天王寺入住侶民部僧  
 都毫範又祭祀命に今も至て一千有余年庚申の  
 祭りたえに 酉陽雜俎より凡庚申の卯三戸人の過より七度  
 祭りたえに 庚申の卯三戸を三度庚申の卯守まへ三戸  
 は伏し又太平廣記より三戸の姓常又人の身の中  
 居て其罪とく三戸祭り庚申の日乃至に上帝に祈故  
 三戸の神とて先三戸の身の中にある人の善悪はよく考庚申の  
 卯とて上三戸の星のいまは卯の辰曹の宮よりつゞき其過ら  
 告くらやまら大なりと云より一紀十二年の壽命をいひしれ一  
 第六十日の命はつゞきする故に庚申の夜にもすつづつれして  
 三戸とて守とて傳よかり

○王子之社 安倍野街道よりあり祭る所熊野王子なり  
 皇都より紀州牟婁郡みづりの間九十九所の王子祭祭  
 る其第一の社なり

松虫塚





○松虫塚

阿倍野街道あり其傳曰後鳥羽院の  
宮女と鈴虫松虫とて二人ありあり美目よりくく  
ゆつやまこりりい帝の御地をえ珠よてたうりら  
其以法然上人都東山黒谷の菴室と別時念佛  
けしめりし聽聞の貴賤羣集しる此二人の宮女忽發  
心死生ドをりはくらりとまり捨出家せし帝甚く  
逆鱗ありてかの上人と土佐の國へたしし其後松  
蟲安ん菴河をひて生涯を送りるその志を思て  
松虫塚とす

一説みいづくいりうり伴ひて此地邊とゆきらるり秋の半そ  
那の色清く澄て松蟲の聲面白みみかきとくるとなく

○經塚

同所みり俗傳云聖德太子經丈一字二石  
書寫一字築納て經塚と成り

○大名塚

同所みり北畠中納言源顯家卿の古墳也  
卿と正二位大納言北畠准后親房卿の長男也天弘三年  
陸奥の國司兼鎮守府將軍と成る建武丙子の春賊京  
師と相つて帝叡山々御幸なり顯家義定正成等と是を  
京師と破り遂て豊島河原と戦ひ賊と西海に走らし而  
詔して征夷將軍とす三月中納言み拜り又鎮守府大將軍に









萬代池  
住吉社乃  
東北安倍  
野御道  
或曰  
長居の池  
則是なり  
といひ  
廣さ  
六百畝



○小町塚 同所より此塚小野小町古墳なりと云傳ふ  
○播磨塚 同所よりむい播磨の守みけりる人の塚や  
といり其證詳なり

○道頓堀と西幸町の町より穰多村津守新田と終  
て住吉の濱邊長峽の橋出是濱邊街道なり

住吉名勝圖會卷之三終



